

おお大勝利

平成 29 年度山東サッカー部報第 2 号 (4 月 19 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y1開幕戦 米中に逆転負け

4 月 15 日 (土) 待ちに待ったシーズンが開幕。Y1 (山形県リーグ 1 部) 第 1 節米沢中央戦が山形市球技場で開催されました。選手たちは前日練習後、「今日眠れるだろうか」などと話している。気持ちが昂(たかぶ)ってるな～、諸君、小学生の遠足じゃないんだから。でも、それは顧問も一緒。**秋冬のトレーニングの成果、チームの成長がどの程度か**、練習試合では一定の手応えはありましたが、やはり公式戦でないと、しかも Y1 レベルの相手でないと、真価は分からない。「さあ、いよいよだ」と昂る。

相手は、県新人 1 回戦で敗れている米沢中央。リベンジマッチという意味合いだけでなく、前回は延長まで行った (競った) 対戦だっただけに、**秋冬でどちらが伸びたのかを測る絶好の相手**との対戦という意味合いがあり、非常に興味深い。相手は、置賜地区のクラブチームの精鋭と県外出身者が融合し、質の高いサッカーを展開してくる。2013 年には選手権にも出た。県内の指導者の中で随一の情報通の T 高校の M 川先生からは、かなりエグイ新入生が入りチーム力が UP しただろうとの報告を受けた。この報告にはやはり軽い失望を覚えるも、大切なのは相手の出方ではなく、自分たちの戦いと自分に言い聞かせ、気持ちを落ち着かせる。

試合には、**清野総監督 (山形東サッカー後援会名誉会長)**、そして総監督の同期の**工藤先輩**、そして**後藤報道局長**といういつもの御三方が揃い踏み。また、3 月に卒業し山大に進学した**ユータロー**と**マツキ**も顔を出してくれた¹。そして、予備校に通っており、「県リーグは応援に来なくていいよ」と念押ししたはずの**Y 君**も来た模様。「(プレー中) ユートさんの声めっちゃ聞こえた」と選手が言ってたぞ。まあ、開幕戦だから許すとするか。もちろん、保護者の方も多数駆け付けてくれている。**OBOG と保護者の熱意は本当に全国レベルです!**

試合が開始されると、米中のボランチ・CB の圧力を感じる。相手の巧さよりも強さを感じる立ち上がり。米中が押し込む時間が長い。これは試合を通して言えたことなのですが、**山東は相手ボールホルダーを複数で囲んでもボールを奪い切れない**ことがあり、守備を攻撃になかなかつなげることができない。米中に押し込まれつつ何とか良い形でフィニッシュ (シュート) につなげさせずに耐えていると、カウンターから山東も何度かチャンスを作る。前線の選手だけでゴールに迫った惜しい攻撃や、相手のビルドアップに対して素早くアプローチしてショートカウンターを繰り出したのも憶えているが、やはり MF も押し上げて厚みを持って攻め、最後は**山辺の星アダチ**がゴールの至近距離からゴール上空へシュートを打ちあげたシーンが一番印象深い。「決めるだけじゃん」とため息が出るも、**前半は決定機は山東の方が多く、まずまずの内容**と言ってよかった。ただし、「結果だけではなく、内容でも周りを驚かせる」ことを目標

¹ ベンチに挨拶に来てくれたのはユータローのみ。志村顧問が、「なんで挨拶に来ないんだ」と憤ってたぞ。

にしてきただけに、こんな程度ではまだまだ足りない、もっとアグレッシブに勝負していい（攻めていい）と檄を飛ばし、後半に向かわせる。

しかし、後半の内容は、先制点！以外、特記するに値しないもの。山東は前半から前線からプレッシャーをかけ、前から嵌めて高い位置で（相手ゴールから近いところで）ボールを奪い、相手のビルドアップを制限しに行きましたが、それがはまり、**後半早々にベジが得点を奪い山東先制！**しかし、その後は山東の攻撃としては観るべきものがない内容。**アバウトな縦パスを蹴っては相手 CB に跳ね返されることの繰り返し**。相手の背後を狙う縦パスが悪い訳ではないのですが、それ一辺倒はいけないし、何よりその攻撃がうまく行っていないことに気づきピッチ内で修正できないといけない。だって、今年の上東はチビっ子軍団なのでから、それに合う攻撃をしてもらいたかった。ただ、「やろうと思えばできた」話なのか、「やろうと思ってもすぐできるものでもない」のかは、大きな違いとしてある。①スペースのない中でもマークを外して受けるオフザボールの動き、②狭い中でもどこでボールが欲しいかボディランゲージ等で示しパスに分かりやすくアピールする工夫、③体を預けながらボールを受けるコンタクトスキル等々がまだまだ甘く、自信を持ってボールを受けられないという現状を露呈。だから、FKになると、皆受けようとせず、ボールから遠ざかるばかりになる。遠ざかる選手も必要だが、果たして今年の上東にとってそればかりで良いのか。アバウトな攻撃でボールを簡単に失うことが多くなると、やはり米中のリズムになってくる。米中の丁寧なビルドアップが決まり始め、山東苦しくなる。

山東サイドから見て右サイドでオーバーラップをかけた相手左 SB からのセンターリングを中で決められて、後半の後半に失点し、1対1へ。このシーン、①山東右 SH の戻りが遅く、マッチアップしている相手左 SB に簡単に走られたことがまず問題ですが、②その状況を踏まえ、山東右 SB はボールホルダーへのアプローチを捨てて、ボールを追い越す動きをした相手左 SB のマークにすぐ行くべきだった、③ボールホルダーへのアプローチは CB 等がすぐ行くべきだった、④そして、そのコーチングを CB、GK がしていないことも問題だし、⑤もちろん中で競り負けてシュートを打たせていることも問題。このシーンだけでも反省点は盛り沢山。

そして失点の直後、山東サイドから見て左サイドでボールを奪いきれず、それを斜めに右まで運ばれて、ほぼ GK との 1対1 を決められて追加点を許す。このシーンも、①左サイドで CB が奪いきれずボールホルダーを逃した、②それを中でもう一人の CB が非常に緩く対応し、制限をかけられずにパスを許した、③右 SB は CB のカバーに行ったのだが、行き過ぎてしまい中寄りのポジションを取り過ぎて右をがら空きにした（ゴール前で 2対2 の状況で簡単にフリーの選手を作ってしまった）、④フリーの相手に対して GK は思い切って前に詰めてほぼシュートコースを無くしたが、相手のシュートを最後まで見極めずに体を倒したため逆を取られてあっさりゴールへのシュートを許した（あそこまで距離を詰めていれば、ゴールマウスを捕えるシュートは体のどこかに当たるはずだったのでは → 距離を詰めた時にはダイブし手で取りに行く必要はなく体に当てさえすればよい → 足に当ててもよい）。とまあ、守備の反省点は多い。

ただし、GK や DF ばかりが責められるべきではなく、この後半の上東の出来は本当に悪かった。**結局 1対2 の逆転負け**で、Y1 第 1 節を落とす。攻守にわたり、反省点満載の開幕戦でしたが、これを糧にする以外ない。次節も応援よろしくお願いします。

4月22日（土） Y1 第2節 VS 日大山形 A 15:30～ @山形市球技場